

令和2年度 公立鳥取環境大学 講演報告

日本技術士会 鳥取県支部

山根 清香

(株) ヨナゴ技研コンサルタント

1. はじめに

鳥取県では、公立鳥取環境大学と連携して、「誰もが活躍できる社会づくり～女性技術士の視点から～」と題した講座を開催しています。

この講座は、男女共同参画の視点から仕事と様々なライフイベントを踏まえた生活の在り方も視野に入れた、若い世代のキャリア形成をサポートすることを目的としています。

昨年度に引き続き、鳥取県から講師派遣依頼をいただき、女性会員3名が講演を行いましたので、ご報告します。

2. 講演概要

主催：鳥取県

日時：令和2年12月7日（月）

14:40～16:10

場所：公立鳥取環境大学

参加者：環境学部2年生 約100名

プログラム：

- 1) 「女性、技術者、技術士としての私の経験」
講師：赤井伸江
- 2) 「女性技術者として働く農業農村整備の仕事」
講師：澤麻衣子
- 3) 「技術者として働く～未来の技術者のために これからの働き方～」
講師：山根清香

3. 講演

1) 講演①「女性、技術者、技術士としての私の経験」

まずは赤井氏から、技術士制度や試験の概要について説明をいただきました。受講者が環境学部の学生ということで、環境に関する

内容が含まれている部門・科目にどのようなものがあるかなどを詳しく紹介し、学生たちが普段取り組んでいるSDGsと関連付けて技術士の責務や役割などについてもお話しいただきました。

また、建設コンサルタントでの環境関連業務として、オオサンショウウオや猛禽類、植物などの自然環境調査、水質や騒音などの生活環境調査、希少な動植物の保護に関する活動などの事例を紹介されました。

ご自身の経歴紹介では、男女雇用機会均等法改正前には男女の求人に差があったことなどに触れ、そのような中で技術者として経験を積み、介護による離職・復職を経て、技術士として活躍していること、これからチャレンジしていきたい資格などについてお話しされました。



写真-1 赤井氏による講演

2) 講演②「女性技術者として働く農業農村整備の仕事」

澤氏は、農業農村整備の仕事について、圃場整備や水利施設の機能保全、農業集落排水

施設の整備、自然エネルギーを活用した発電システムへの取組み支援、ため池のハザードマップ作り、災害時の対応など、具体的事例を紹介しながらわかりやすく説明されました。

技術者として実際に現場に立ち、地域の方とコミュニケーションを取っている様子や「水土里ネット女性の会」など様々な技術者の会に参加されている様子の写真なども多く紹介されました。

資格取得の経緯については、学生時代から目標や目的意識をしっかり持っていたこと、業務の中で必要な資格を自ら進んで取得してきたことなどをお話しされ、学生も興味深く聞き入っていました。



写真-2 澤氏による講演

3) 講演③「技術者として働く～未来の技術者のために これからの働き方～」

山根は、「働きやすい職場づくり」をテーマにお話しさせていただきました。

自身の経験として、育休復帰後の時短勤務、保育園に預けながら働く1日の様子、家族や同僚など多くの人にサポートしてもらったことなどを紹介しました。

子育てと仕事の両立は、子を持つ母親だけの問題ではなく、父親の職場の理解も必要なこと、若年層から高齢者までいろいろな人が働く職場では、共存意識を持って、互いに理解し助け合える環境づくりが必要なことなど、自身の考えを述べました。

子どもが小学校に上がる際に直面する「小1の壁」と呼ばれる社会問題についても紹介しましたが、ほとんどの学生が初めて耳にした言葉だったようです。

最後に、新しい技術の導入による生産性の向上や人材確保、社員教育など、働きやすい職場環境づくりのための自社の取組み事例についても紹介しました。



写真-3 聴講の様子

4. あとがき

令和2年は、新型コロナウイルスの感染拡大を受け、生活様式や働き方など、社会が大きく変化した1年でした。本講座も感染対策を行いながらの開催となりました。

さて、本講座名は、昨年度の「男女がともに担う社会づくり」から「誰もが活躍できる社会づくり」に変わっています。

そこには、性別だけではなく、年齢や価値観などの様々な違いを受け入れ、誰もが活躍できる社会にしていこうという思いが感じられます。

令和3年は、制約や制限に縮こまるばかりではなく、次の世代に向け、よりよい変化に繋げられるような年にしていきたいと考えております。